

# 食品のリスクに対する消費者の意識調査とその分類・定量化の試み

2013年8月23日  
健康政策医学講座 サマーセミナー

和田千津子  
奈良県立医科大学健康政策医学講座

1

## 背景

- ◆食品による健康被害事件・事故の発生直後は、消費者による大規模な買い控えが生じるが、徐々に事態の緩和がみられる。
- ◆遺伝子組み換え(GM)食品や食品添加物については、有益な開発がされているにもかかわらず、社会受容が進まないといわれている。

2

## 目的

- 食品の持つ健康被害のリスクに対し、科学的な視点のリスク評価と消費者の認識するリスク評価の間に乖離があるためと考えられる。
- リスクコミュニケーションを適切に行うには、消費者の意識や抵抗感の実態を把握することが必要。



リスクコミュニケーションに関する問題を抱える食品に対する、消費者の意識や抵抗感の実態を定量化して把握する。

3

## 方法

- 調査方法：インターネットによるアンケート調査

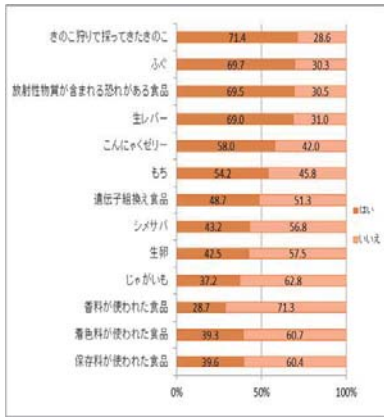
	食品添加物に関する意識調査	福島第一原発関連食品調査	GM食品別受容性調査
実施期間	2013年3月19日 ～2013年3月23日	2012年10月24日 ～2012年10月31日	2010年2月20日 ～2010年2月22日
対象	性別年齢階層別の10セグメントに均等割り付けした20歳以上の男女モニター		
有効回答	1061人	1098人	1030人
調査項目	①食品の持つ健康被害のリスク認知 ②消費意向 ③食品の摂食意向 ④添加物使用の食品別支払意思額(WTP)	①消費意向 ②福島第一原発周辺地域を産地とする食品のWTP	①消費意向 ②GM食品別WTP

4

## 食品による健康被害のリスクの認知

➢健康被害のリスクについて知っていますか。

- 『添加物を使用した食品』については、30～40%の人が知っている
- 『放射性物質が含まれる恐れがある食品』については、約70%の人が知っている
- 『遺伝子組換え食品』は約50%の人が知っている

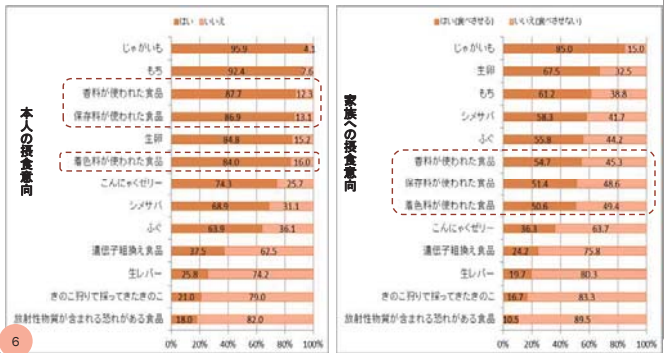


5

## 食品の摂食意向の比較

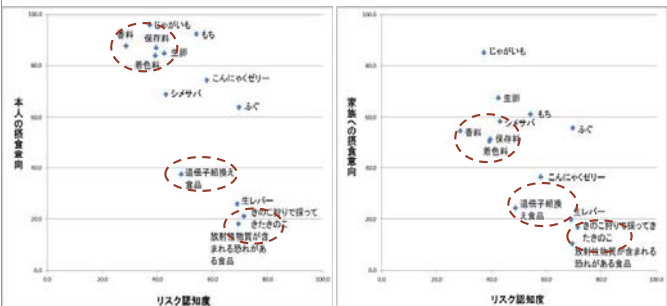
➢その食品を食べますか。家族に食べさせても良いと思いますか

- 全ての食品で、回答者自身が食べる場合の摂食意向よりも、家族に食べさせる場合の方が低下する。



6

## 健康被害のリスクの認知と摂食意向



- 『添加物を使用した食品』は、本人にとってリスク認知度が低く 摂食意向が高いが、家族に対してはリスク 認知も摂食意向も低い。
- 『放射性物質が含まれる恐れがある食品』は、本人・家族共にリスク認知度が高く 摂食意向が低い。
- 『遺伝子組換え食品』は、リスク認知度が中程度で摂食意向が低く、家族に対しては生レバー等の実際に健康被害が報告されている食品と同じ群であった。

7

## 消費意向

➢添加物が確実に使用されている次の食品が、通常市販されている食品(必要に応じて添加物が使用されている食品)より安い場合、食べても良いと思いますか



8

福島県・茨城県など南東北・北関東地方産でない食品より安い場合、食べても良いと思いますか

福島県・茨城県など南東北・北関東地方産のトマト



福島県・茨城県など南東北・北関東地方産の原乳を使って製造した日本製ガマンペールチーズ



GM食品がNon-GM食品よりも安い場合に食べても良いと思いますか



### 添加物が確実に使用された食品に対するWTP

価格を回答した人の平均

購入しないと回答した人を0円換算した場合の平均

食品	通常の食品価格(円)	WTP(平均価格)(円)	購入しても良いと感じる割合
合成保存料が使用されている日本製ガマンペールチーズ	300	225	25%
合成保存料が使用されているトウモロコシの缶詰	220	164	25%
合成着色料が使用されているハム	200	151	25%
合成着色料が使用されているハム	200	148	26%
合成酸化防止剤が使用されているかまぼこ	200	149	25%
人工甘味料が使用されている清涼飲料水	130	104	20%
香料が使用されているチョコレート	200	154	23%
天然保存料が使用されている日本製ガマンペールチーズ	300	253	16%
天然保存料が使用されているトウモロコシの缶詰	220	181	18%
天然着色料が使用されているハム	200	169	16%

### 福島県・茨城県産食品とGM食品に対するWTP

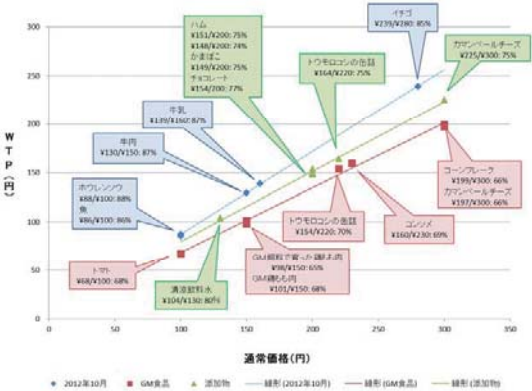
価格を回答した人の平均

購入しないと回答した人を0円換算した場合の平均

食品	通常の食品価格(円)	WTP(平均価格)(円)	購入しても良いと感じる割合
2012年10月 牛乳	160	139.4	13%
イチゴ	280	239.0	15%
魚	100	85.9	14%
国産牛肉	150	129.8	14%
トウモロコシの缶詰	220	154	30%
コーンフレーク	300	199	34%
トマト	100	68	32%
GM原料で買った鶏もも肉	150	101	32%
GM原料で買った鶏もも肉	150	98	35%
コンソメ	230	160	31%
ガマンペールチーズ	300	197	34%

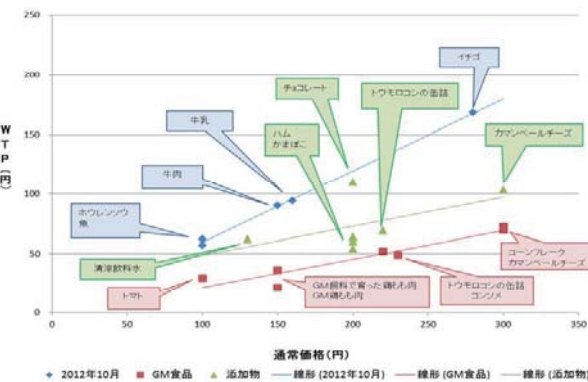
### 支払意思額 (WTP)

価格を回答した人の平均の比較



### 支払意思額 (WTP)

購入しないと回答した人を0円換算した場合の平均の比較



### 考察

- 食品による健康被害のリスクの認知や摂食意向は、食品によって異なり、WTPを用いることで消費者の抵抗感を定量化して評価した。
- 添加物使用食品は、健康被害のリスクに対する認知や本人の摂食意向は高く、WTPは相対的に高いことから、消費者にとってあまりリスクが高いとは認知されておらず、受け入れられていることが示唆された。

### 考察

- 原発事故関連食品については、多くの人がリスクを認知し摂食意向は低い、WTPが高いことより、生産者を支援する目的での買い支えや、事故後2年が経過していることで、現在販売されている食品には原発の影響がそれほど多くないと判断されていることが示唆された。
- GM食品に対するリスクの認知は、添加物と比較すると高い状況であるが、摂食意向とWTPは低く、添加物・福島第一原発事故に関する食品と比較し、抵抗感強いと考えられた。

### 考察

- これらの食品に対する受容を促すためには、消費者がこれらの食品の持つ健康被害のリスクを理解できるような情報提供など、より積極的なリスクコミュニケーションが必要であると考えられる。

## 結語

- 添加物や福島第一原発事故に関する食品と比較して、消費者のGM食品への抵抗感は強い。
- 食品への抵抗感は、食品の持つ健康被害のリスクの認知が影響すると考えられる。
- 支払意思額により、消費者の対象食品の受容性を定量的に把握できると考えられる。
- リスクコミュニケーションにおいては、消費者が十分にリスクを理解できる情報を具体的に検討し、提供する必要がある。

17

ご清聴ありがとうございました



18